

予報第6号(10月)

大 防 第 1025号
平成 20 年9月26日

関係各位

大阪府病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

標記について次のとおり発表したので送付します。

病虫害発生予報第6号(10月)

平成 20 年9月29日
大阪府病虫害防除所

農作物名	病虫害名	予想発生量
みかん	そうか病	□
	黒点病	△
	ミカンハダニ	▲
	ミカンサビダニ	△
果樹全般	果樹カメムシ類	□
なす	うどんこ病	○
	ミナミキイロアザミウマ	○
	ミカンキイロアザミウマ	△
きゅうり	うどんこ病	△
	べと病	○

	褐斑病	□
	炭そ病	□
	ミナミキイロアザミウマ	○
	ウリノメイガ(ワタヘリクロノメイガ)	△
キャベツ等 アブラナ科野菜	黒腐病	□
	ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)	△
	コナガ	△
	ウワバ類	□
きく	黒斑病・褐斑病	□
	白さび病	△
野菜・花き類	アブラムシ類	△
	ハダニ類	□
	シロイチモジヨトウ	□
	ハスモンヨトウ	□
	オオタバコガ	□
	ハモグリバエ類	□
	コナジラミ類	□~○
	吸実性カメムシ類	○
▲:少ない △:やや少ない □:並 ○:やや多い ●:多い		

10月気象予報(大阪管区气象台9月26日発表)

	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温(確率)	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

- A 果樹
1 みかん

【そうか病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では発生は平年並だった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)台風などの強風で傷がつくと急速に広がりやすい。

【黒点病】

[予報内容] 発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では発生がやや少なかった。

【ミカンハダニ】

[予報内容] 発生量:少ない

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では発生は少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)同系統の薬剤の連用をさけ、ローテーション散布する。

【ミカンサビダニ】

[予報内容] 発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)被害果が多く見られるようになってからの薬剤散布では、十分な防除効果を得にくい。

2 果樹全般

【果樹カメムシ】

[予報内容] 発生量:平年並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生は平年並だった。

(2)フェロモントラップによる誘殺虫数は、平年並であった。

B 野菜

1 なす(露地栽培)

【うどんこ病】

[予報内容] 発生量 : やや多い

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では発生がやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)こまめに摘葉、摘芯を行い、過繁茂にならないようにする。

(2)葉裏から発生することがあるので、注意して観察し、発生初期の防除を徹底する。

(3)樹勢が弱ると発生しやすいので、肥切れにならないように肥培管理に注意する。

(メモ)

・うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。

【ミナミキイロアザミウマ】

[予報内容] 発生量 : やや多い

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生がやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。

(2)同一薬剤の連用を避けローテーション散布を行う。

【ミカンキイロアザミウマ】

[予報内容] 発生量 : やや少ない

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生がやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)収穫後の残さは、他作物等への伝染源となるので、速やかに処分する。

(2)薬剤抵抗性を生じやすいため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(メモ)

・ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマは、作物を加害するだけでなく、ウイルス病(TSWV)を媒介する。

2 きゅうり(ハウス栽培)

【うどんこ病】

[予報内容] 発生量 : やや少ない

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では発生がやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)こまめに摘葉、摘芯を行い、過繁茂にならないようにする。

(2)葉裏から発生することがあるので、注意して観察し、発生初期の防除を徹底する。

(3)樹勢が弱ると発生しやすいので、肥切れにならないように肥培管理に注意する。

(メモ)

・うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。

・ブルームレス台木のきゅうりでは、うどんこ病が発生しやすい。

【べと病】

[予報内容] 発生量 : やや多い

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生がやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)排水を良好にし、換気、摘葉をこまめに行う。

(2)肥切れしないように肥培管理に注意する。

(メモ)

・多湿時に発生が多い。

【褐斑病】

[予報内容] 発生量 : 並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)追肥が遅れると発生しやすくなるので、肥切れに注意する。

(2)初期防除が重要となるので、発病を認めたら直ちに防除を行う。

(メモ)

・高温多湿条件下で多発する。防除が遅れると、つる全体が急速に枯れ上がる。

・ブルームレス台木で発生しやすい。

【炭そ病】

[予報内容] 発生量 : 並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、平年と同様に発生はほとんど見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ハウス内の過湿を避ける。

(2)チツソ過多は発生を助長するので、チツソ肥料のやりすぎに注意する。

【ミナミキイロアザミウマ】

[予報内容] 発生量 : やや多い

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生がやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。

(2)同一薬剤の連用を避けローテーション散布を行う。

【ウリノメイガ(ワタヘリクロノメイガ)】

[予報内容] 発生量 : やや少ない

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除を徹底する。

3 キャベツ等アブラナ科野菜

【黒腐病】

[予報内容] 発生量 : 並

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)台風や大雨による葉の傷から病原菌が侵入するので、降雨後直ちに薬剤散布を行う。

(2)ハスモンヨトウ、ハイマダラノメイガ、コナガ等による食害痕からも病原菌が

侵入するので、これらの害虫の防除を徹底する。

(メモ)

・多雨時に多発する。

・アブラナ科野菜の連作ほ場で発生が多い。

【ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)】

[予報内容] 発生量 : やや少ない

[予報の根拠]

- (1)9月の巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。
- (2)フェロモントラップでの誘殺虫数は、8月下旬は多かったが、その後はやや少なかった。
- (3)9月の防除員報告では、発生は平年並またはやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期の防除を徹底する。

【コナガ】

[予報内容] 発生量 : やや少ない

[予報の根拠]

- (1)9月の巡回調査では、発生はやや少なかった。
- (2)9月のフェロモントラップでの誘殺虫数はやや少なかった。
- (3)9月の防除員報告では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期に防除を徹底し、ローテーション散布を行う。
- (2)被覆資材(2mm目合)によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。

【ウワバ類】

[予報内容] 発生量 : 並

[予報の根拠]

- (1)9月の巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期の防除を徹底する。

C 花き類

1 きく

【黒斑病・褐斑病】

[予報内容] 発生量 : 並

[予報の根拠]

- (1)9月の巡回調査では、発生は平年並だった。

【白さび病】

[予報内容] 発生量 : やや少ない

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生がやや少なかった。

D 野菜・花き・大豆

【アブラムシ類】寄主作物:野菜、花き

[予報内容] 発生量 : やや少ない

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

(2)9月の黄色水盤での誘殺虫数は、やや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)少発生時の防除を徹底する。

(2)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(3)施設栽培では、開口部に寒冷紗等(1mm目合)を被覆し、成虫の飛来を防止する。

(メモ)

・アブラムシ類はウイルス病を媒介する。

・かぼちゃ台きゅうりではウイルス病に複合感染すると、急性萎ちょう症が発生することがある。

【ハダニ類】寄主作物:野菜、花き

[予報内容] 発生量 : 並

[予報の根拠]

(1)9月巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除を徹底する。

(2)同一薬剤の連用を避ける。

(メモ)

・ハダニ類は乾燥条件下で多発する。

【シロイチモジヨトウ】寄主作物:野菜、花き

[予報内容] 発生量 : 並

[予報の根拠]

(1)9月巡回調査では、発生は平年並であった。

(2)9月のフェロモントラップでの誘殺虫数は、上旬はやや多く、中旬以降は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。
- (2)フェロモンディスペンサーを設置すれば、成虫の交尾を阻害し、被害を軽減できる。
- (3)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。
- (4)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【ハスモンヨトウ】 寄主作物:野菜、花き、大豆

[予報内容] 発生量 :並

[予報の根拠]

- (1)9月の巡回調査では、発生は平年並であった。
- (2)9月のフェロモントラップでの誘殺虫数は平年並であった。
- (3)9月の防除員報告では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)葉裏に存在する、鱗毛に覆われた卵塊、群生している幼虫を見つけしだい処分する。
- (2)発生初期(若齢幼虫期)に、薬剤を葉裏にまでよくかかるように散布する。
- (3)薬剤抵抗性の発達を避けるため、同一系統薬剤の連用を避ける。
- (4)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。
- (5)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【オオタバコガ】 寄主作物:野菜、花き

[予報内容] 発生量 :並

[予報の根拠]

- (1)9月の露地なす巡回調査では、発生は平年並であった。
- (2)9月のフェロモントラップでの誘殺虫数は、やや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。
- (2)被害のあった新芽や蕾、果実は早期に処分し、周辺の幼虫を探して捕殺する。

幼虫は1頭でいくつもの花蕾、果実を加害するので、捕殺の効果が高い。

(3)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。

(4)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【ハモグリバエ類】 寄主作物:野菜、花き

[予報内容] 発生量 :並

[予報の根拠]

(1)9月の野菜の巡回調査では、発生はやや少ない、または平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)被害葉、残さはほ場より持ち出し、ビニール袋に入れたり、穴を掘って埋めるなど

して処分する。

(2)しゅんぎくや大阪しろな等の軟弱野菜では、収穫後に地表面をビニール被覆し、

太陽熱により蛹を殺すことで、次作の被害を軽減できる(4月中旬~10月上旬の間可能)。

【コナジラミ類】 寄主作物:野菜類、花き類

[予報内容] 発生量 :並~やや多い

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生はやや多かった。

(2)9月の病害虫防除員の報告では発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除に努める。

(2)被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。

(3)施設では、開口部を寒冷紗等(目合 0.4~0.6mm)で被覆し、成虫の侵入を阻止する。

(4)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(5)ほ場周辺の除草にも努める。

【吸実性カメムシ類】 寄主作物:大豆

[予報内容] 発生量 :やや多い

[予報の根拠]

(1)9月の巡回調査では、発生はやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)1頭が多数の莢を加害するので初期防除を徹底する。

農作物の病害虫に関する情報は

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府病害虫防除所メールサービス担当

TEL 072-958-6551(内線232)

<情報料無料>

年間約40件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府環境農林水産総合研究所(本部)

企画調整部技術普及課

おおさかアグリメール受付担当

TEL 06-6972-7666

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

(受信に要する通信費は自己負担です。)

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://www.epcc.pref.osaka.jp/afr/zukan/index.html>

(社団法人大阪府植物防疫協会)